

Title	製薬企業のグローバル戦略とオペレーション - 日本の中堅企業への示唆 -
Sub Title	
Author	青木, 伴峰(Aoki, Tomomine) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2006
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2006年度経営学 第2107号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	0530017	氏名	青木 伴峰
(論文題名)					
<p>製薬企業のグローバル戦略とオペレーション - 日本の中堅企業への示唆 -</p>					
(内容の要旨)					
<p>製薬企業の多くが、グローバル戦略を重要な経営指針の一つに挙げている。実際、多くの企業が海外に支社や関連会社を設置し、海外とのネットワークを築いている。</p> <p>日本の製薬企業においても、激化する競争環境の中で生き残る為に、探索の範囲を広げ、研究・開発活動を促進し、さらには、販売網を広げようと海外に活動の範囲を広げている。特に、製薬企業の最も重要な競争要素である研究開発力は、このグローバル戦略の成否にかかっていると看做しても過言ではない。</p> <p>大手の製薬企業はその規模を活かし、多くの地域で R&D 施設を設置・運営している。探索範囲を広げ、多くのシーズを手がけることによって、R&D 力は向上するであろう。一方、中堅規模の企業もまた、海外に R&D 施設を設立している。大手企業に比べ投資力の劣るこれらの企業は、その投資効率を上げるためにさまざまな努力を行っている。</p> <p>これらの努力にもかかわらず、「海外 R&D 施設のパフォーマンスが上がらない」という声をよく耳にする。このような企業における海外 R&D 施設の運営において、何が問題となっているのだろうか。</p> <p>当論文では、国内中堅製薬企業の海外 R&D 戦略に焦点を当て、グローバル化の進化の過程を明らかにし、効果発現を阻害するメカニズムを解析する。また、効果を発現する為の必要条件を検証し、それぞれの企業の状況に応じたグローバル戦略のパターンを概観する。</p> <p>さらに、戦略のカギになる海外 R&D 施設のオペレーションに関する問題点を検証し、効果的なオペレーションの手法を提言する。</p> <p>分析手法として、先行理論を元にいくつかの仮説を設定し、関係者へのアンケート、インタビューを元に、仮説の検証を行う。</p> <p>この研究は、国内製薬企業のグローバル化戦略における問題解決の糸口となり、ひいては開発力向上の一助となると考える。</p>					